

令和3年11月 経営協議会（対面・オンライン併用）議事録

I. 日 時 令和3年11月18日（木） 13時58分～16時17分

II 場 所 千葉大学事務局第1会議室

III. 出席者 中山学長、犬養、岩田、加賀見、河田、黒木、島田、西堀、萩原、舩橋、正宗、中谷、渡邊、藤江、金原、手島、堀、岩崎、小澤、佐藤（之）、松原、横手、諏訪各委員

がざー 角倉、山本各監事
(欠席者：有馬、香藤、銭谷、宮坂、渡邊各委員)

※下線はオンライン出席者

IV. 前回議事録について
原案のとおり承認された。

V. 審議事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 第4期中期目標期間における教員人事計画（案）について

中谷理事から、第4期中期目標期間における教員人事計画（案）について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 第4期中期目標期間中、3年間不補充となると、どの程度の数の教職員が減るのか。
- 毎年10名程度退職者がいるため、1年間で10名程度空きポストが生まれるが、教育等のどうしても割くことが出来ない等のポストは、すぐに補填しているというのが、現実の対応となっている。
- ◎ 職員の人事計画も作っているのか。
- 法人化前の国立大学の定員削減は、主として事務職員を対象に行われてきたという事情もあり、現時点で事務職員の明確な計画はない。今後、業務の効率化を図っていくことが、まずは課題だと考えている。
- ◎ ダイバーシティという観点から、女性限定公募は非常に良い取組だと思う。
- ◎ ダイバーシティという観点からも、自分の才能がきちんと活かせるような全般的な環境作りが非常に重要である。
また、優秀な人材の外部からの採用と、内部昇任のバランスが非常に重要である。
- 仰るとおりである。なお、内部の昇任を防いでいるということは全くなく、能力があり、ポジションが空いてれば、当然昇任することは可能である。また、ダイバーシティについては、ダイバーシティ担当の森副理事が中心となり、十分考えながら進めていきたい。

- ◎ 今回示された方針は、文部科学省がひな形を作って各大学に示しているのか。
- 千葉大学で考えたものである。
- ◎ 不補充になると、残った人に負担がかかるため、大学として会議を増やさないなど、負担を軽減することが必要だと考える。
- 中山学長になり、会議は減っている。労働の負荷を高めて、研究時間を減少させることがないよう、気を付けていきたい。また、今後様々な方策を検討し、人件費をなるべく維持していきたい。

2. 国立大学法人千葉大学就業規則の一部改正等について

手島理事から、国立大学法人千葉大学における大学教員の任期に関する規程の一部改正について、資料に基づき説明があり、審議の結果、承認された。なお、「一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律」が、本会議までに制定されなかったことを受け、国立大学法人千葉大学職員給与規程及び国立大学法人千葉大学法人役員給与規程の一部改正については、今回取り下げる旨、説明があった。

VI. 協議事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 新型コロナウイルスへの対応について

中谷理事から、本学における新型コロナウイルス感染者等の状況及びワクチンの大学拠点接種について報告があった。続いて、小澤副学長から、現在の授業の実施状況及び留学プログラム等について報告があった。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 人流解析など、墨田区との連携の話はあったが、千葉県下の自治体とはそういうような連携はあったのか。
- 資料でお示している「住居での効果的な換気方法実証事業」は松戸市との連携で行っているものである。
- ワクチンの接種については、医師、看護師等のスタッフを派遣して自治体、千葉市には協力しているという、そこは最も力を入れている。
- ◎ 私費留学生在が入国する際の手続きが相当複雑ということだが、千葉大学として、サポート体制を組んでいるのか。
- 外国人留学生の受入れを担当している留学生課において、書類の作成の支援等を行う。

VII. 報告事項（◎学外委員、○学内委員）

1. 医学部附属病院の運営状況について

横手副学長から、医学部附属病院における収支見込、並びに4月から10月の稼働状況、新型コロナウイルス感染症への対応状況及びその他の運営状況について、資料に基づき報告があった。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 20 床を新型コロナウイルス患者用として、常に空けているということだが、その間のベッドに対する補償というものはあるのか。
- いわゆる空床確保料を県に約束していただいている。

2. 令和3年司法試験の結果について

下井専門法務研究科長から、令和3年司法試験の結果について、資料に基づき報告があった。

主な意見は以下のとおり。

- ◎ 年々減っているので、募集停止することも検討する時期なのではないか。来年結果が出なければやめるぐらいの覚悟でやっていただきたい。
- ◎ 他大学の成功例を参考にしてもらいたい。
- すでに現状分析を行っており、その分析をもとに、来年少しでも目標に近付けるようにやっていきたい。

以 上